

研究業績リスト(最近の論文等、それ以前の著書・翻訳書・論文など)

永岑三千輝

【客員教授期間中の業績、特に2014年以降の著書(単著・分担)、論文・書評(すべて単著)、最新に2年間については下線で明記】

1. 永岑三千輝[2014a]「ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業と秘密再軍備(1)」『横浜市立大学論叢』社会科学系列、65-1・2・3。
2. —[2014b] (2)、人文科学系列、66-1。
3. —[2015] (3)、社会科学系列、66-2。
4. —[2016a] (4)、社会科学系列、67-1・2。
5. —[2016b]「ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業の世界的転回—ナチス秘密再軍備の前提を—考える—」明治大学国際武器移転史研究所『国際武器移転史』2。
6. —[2016c]「ドイツ航空機産業とナチス秘密再軍備」横井勝彦編『航空機産業と航空戦力の世界的転回』(日本経済評論社、)第三章。
7. —[2017a]「ユンカーの世界戦略と日本」『横浜市立大学論叢』社会科学系列、68-2。
8. —[2017b]「ユンカーの世界戦略と中国 1919-1925」成城大学『経済研究』218。
9. —[2017c]「ユンカーの世界戦略と中国 1926-1933」『横浜市立大学論叢』人文科学系列、69-1。
10. —[2017d]書評:ロベルト・ユンク『原子力帝国』(山口祐弘訳、日本経済評論社、2015年7月)、政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第236号、2017年7月。
11. —[2018a]「ユンカーの世界戦略とアメリカ 1919-1924」『横浜市立大学論叢』社会科学系列、69-2。
12. —[2018b]「ナチス研究からヴェルサイユ体制下航空機産業の研究へ」ドイツ学会『ドイツ研究』52。
13. —[2018c]「ユンカーの世界航空交通構想とアメリカ 1924」『横浜市立大学論叢』社会科学系列、69-3。
14. —[2018d]書評:川瀬泰史『シャハト—ナチスドイツのテクノクラートの経済政策と疎の構想—』(三恵社、2017)『社会経済史学』84-2。
15. —[2018e]書評:E・ファン・デル・クナーブ編『映画「夜と霧」とホロコースト—世界各国の受容物語』(みすず書房、2018)。
16. —[2019a]「フーゴ・ユンカーとドイツ民主党」『横浜市立大学論叢』社会科学系列、70-1。
17. —[2019b]「第三帝国の膨張政策とユダヤ人迫害・強制移送 1938」『横浜市立大学

論叢』社会科学系列、70-2。

18. —[2019c]書評:ニコラス・チェア/ドミニク・ウィリアムズ『ある種ヴィッツの巻物—証言資料—』(二階宗人約、みすず書房、2019年5月刊)『週刊読書人』7月19日号。
19. —[2019c]「航空機開発戦略と国際主義—ユンカーとデトマンの闘い—」『横浜市立大学論叢』社会科学系列、71-1(投稿2019年8月2日、編集委員会)
20. —[2020]「第三帝国の膨張政策とユダヤ人迫害・強制移送 1938-1939」同上、71-2。
21. —[2021a]「第三帝国の戦争政策とユダヤ人迫害—ポーランド1939年9月~1941年6月—」同上、社会科学系列、72-1。
22. —[2021b]「第三帝国のソ連征服政策とユダヤ人迫害・大量射殺拡大過程—占領初期1941年6月~9月を中心に—」同上、人文科学系列、72-2-3。
23. —[2021c]「“ユダヤ人問題の最終解決”—世界大戦・総力戦とヴェンゼー会議—」『横浜市立大学論叢』社会科学系列、72-2-3。
24. —[2021d]「第三帝国の全面的敗退過程とアウシュヴィッツ 1942-1945」同上、73-1。(投稿中)
25. —[2021e]『アウシュヴィッツへの道』(横浜市立大学新叢書、春風社刊・・・学術研究会の刊行決定を受け、8月18日完成原稿提出、年内刊行予定)

【学会報告】

1. 「ヴェルサイユ体制下ドイツ航空機産業と秘密再軍備の実態」2015年5月30日、社会経済史学会・第82回大会(於:早稲田大学)
2. 「ユンカーの大西洋横断飛行への挑戦—航空機開発と航空熱—」(政治経済学・経済史学会・秋季学術大会、2018-10-20、於:一橋大学)
3. 「書評:川瀬泰史『シャハト—ナチスドイツのテクノクラートの経済政策と疎の構想—』(三恵社、2017)(ドイツ資本主義研究会 ADWG (NF)、2018-12-08、於:専修大学)

【追加的に、定年退職までの主要研究業績】

I. 著書

【単著】

- ①『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』同文館、1994年(学位論文)。
- ②『独ソ戦とホロコースト』日本経済評論社、2001年(2000年度・科研費出版助成・全国図書館協議会選定図書)
- ③『ホロコーストの力学—独ソ戦・世界大戦・総力戦の弁証法—』青木書店、2003年。

【編著】

- ④永岑三千輝・廣田功編『ヨーロッパ統合の社会史-背景・論理・展望-』日本経済評論社、2004年(2003年度・科研費助成出版)。Pp.1-16, 65-102, およびケルブレ担当の第1章翻訳

【共著】

- ⑤井上茂子・木畑和子・芝健介・永岑三千輝・矢野久『1939 ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』同文館、1989年。担当は、序章 ドイツ第三帝国史研究の現在：政治と経済、国家と経済 pp.19-31、第3章第三帝国のフランス占領とドイツ経済界 pp.151-198.

【共著(担当執筆)】

- ⑥遠藤輝明編『国家と経済-フランス・ディリジズムの研究-』東京大学出版会、1982年(1981年度・科研費出版助成)。(共著者：権上康男、廣田明、廣田功、大森弘喜、原輝史、秋元英一、永岑三千輝)
担当章「第三帝国における国家と経済-ヒトラーの思想構造にそくして-」pp.385-437.
- ⑦立正大学西洋史研究室編『政治と思想-村瀬興雄先生古稀記念青陵氏研究論叢』1983年。
担当章「第三帝国における国家と経済-化学工業独占体イ・ゲ・ファルベン社とオーストリア併合」pp.85-119
- ⑧廣田功・奥田央・大沢真理編『転換期における資本・労働・国家-両大戦間の比較的研究-』東京大学出版会、1988年。
担当章「第三帝国チェコスロヴァキア共和国解体とイ・ゲ・ファルベン」pp.123-151
- ⑨遠藤輝明編『地域と国家-フランス・レジヨナリズムの研究-』日本経済評論社、1992年。
担当章「地域・民族・国家-両大戦間のズデーデン問題-」pp.273-319.
- ⑩西川正雄編『自国史を越えた歴史教育』三省堂、1992年。
担当章「ドイツ=ポーランドの対話」(二)pp.192-207
- ⑪権上康男・廣田明・大森弘喜編『20世紀資本主義の生成-自由と組織化』東京大学出版会、1996年。
担当章「ナチ体制下の戦後構想とドイツ資本主義の組織化」pp.313-342
- ⑫廣田功・森建資編『戦後再建期のヨーロッパ経済-復興から統合へ-』日本経済評論社、1998年。
担当章「ドイツ戦後再建の人間の社会的基礎」pp.55-95.
- ⑬Wolfgang Klenner/Hisashi Watanabe(Hrsg.), *Globalization and Regional Dynamics. East Asia and The European Union from the Japanese and the German Perspective*, Heidelberg 2002.

担当：The Strategies of the Jananese Government and Trade Associations pp.43-49

- ⑭上杉忍・山根徹也編『大学生のための世界史講義-構造的把握を中心に-』(仮書名)、山川出版社、2010年9月刊。
- ⑮横井勝彦・小野塚知二編『軍拡と武器移転の世界史』日本経済評論社、2012年3月、担当章：第8章 ホロコーストの力学と原爆開発
- ⑯横井勝彦編著『航空機産業と航空戦力の世界的転回』日本経済評論社、2016年12月担当章：第3章 「ドイツ航空機産業とナチス秘密再軍備」。

【翻訳書(共訳・監訳)】

- ①ハルトムート・ケルブレ著・雨宮昭彦・金子邦子・永岑三千輝・古内博行訳『ひとつのヨーロッパへの道-その社会史的考察-』日本経済評論社、1997年(第2刷,1998年)
- ②ウォルター・ラカー編・井上茂子・木畑和子・芝健介・長田浩彰・永岑三千輝・原田一美・望田幸男訳『ホロコースト大事典』柏書房、2003年。
- ③ハルトムート・ケルブレ著・永岑三千輝監訳・金子公彦・瀧川貴利・赤松康史訳『ヨーロッパ社会史-1945年から現在まで-』日本経済評論社、2010年3月。
- ④ハルトムート・ケルブレ著・永岑三千輝監訳・瀧川貴利・赤松康史・清水雅大訳『冷戦と福祉国家-ヨーロッパ1945-89年』日本経済評論社、2014年4月。

*以上以外の大学紀要等に発表の学術論文(2013年以前)は多数につき、ここでは省略(論叢の退職記念号に掲載しているの)。